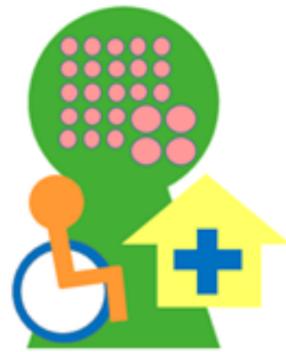


ベルデ ネット



発行 2020年1月24日 (第8号)

事務局／堺市立重症心身障害者(児)支援センター内 ベルデ地域支援センター
〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1 堺市立健康福祉プラザ2階
電話 072-275-8510 FAX 072-243-5900

ごあいさつ

ベルデ地域支援センター からのごあいさつ

堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかいセンター長 児玉 和夫

「障害名は必要ない?!」

昨年録画していたNHK2チャンネルの福祉番組を見て学ぶことがあった。多発性硬化症で目が不自由、呼吸は鼻マスクで補助が必要、電動車椅子という女性がアメリカ留学した映像が出てきた。

そこでは入学の際に障害名を告げる必要はないということだった。障害名が先に出ると、どうしてもその障害名に応じて一律の対応になってしまう。大事なものは何が必要で、何をしてもらいたいか、ということ、そのためには本人の方から積極的にアピールすることが大事になる。教室の席が後ろの方で映しているスクリーンの文字が見えない、講義が聴き取りにくい、と訴えると(障害学生へのアシスタントのような人がついていて)、講師が小さな発信装置をつけヘッドホンでそれを聴けるようにし、スクリーンの内容は別にそれを読み上げ、図などは解説してくれる人をつけてくれた。大学の1~2年では障害学が必須科目で、そこで多くの学生が障害の人も交え、私たちに何が必要なのかを実践的に討議しあっていた。高校の場面も出ていた。

その留学生には毎朝寮から教室までの送迎車がきてくれていたし、街に出て通常のバスに乗ろうとすると乗客が何人も降りてきて電動車椅子で乗り込むのを助けていた(もちろん昇降口からは電動でステップが歩道まで降りて乗り込めるようにはなっているが)。結構混んでいたが乗客に尋ねると、そんなのは当たり前のこととの返事があった。確か昨年末に日本では車椅子で乗車まちの人に『今運行が混んでいて時間がないから』ということでバスが行ってしまったというニュースがあったのを思い出す。

地域連携は進んできているが、本当に大事なものはごく一般の住民も含めた連携であり、そのためにも皆が若い頃から学び、知り、実践していくことが重要であるということを改めて教えられた番組でした。障害者として決めつけるのではなく、皆がごく普通に一緒に生活していけるということは素晴らしいことですね。私たちもそれを目指しましょう。

堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかいの、事業の5本柱(入所・短期入所・通所・外来診療・地域支援)のひとつ、ベルデ地域支援センターは事業開始から5周年を迎えます。

障害を有する人たちの生活を支援することを軸に、今年度も、堺ミーティングをはじめとして各種の講習会やイベントを計画しています。

その中で大切にしたいのは、『その人がその人らしく生活できる環境』や、『その人にとっての心地よさや、尊いと感じること』を、支援する側も同じ目線で関わる意識を持つことだと考えています。

今、地域包括ケアシステムの構築が進められる中、医療と生活の両方の視点を持つ看護職への期待はさらに高まっています。また、2019年には大阪府にも、「医療的ケア児等コーディネーター」が養成されました。地域の生活介護事業所で、医療職が協働している職場も増えていますが、医療的ケアが必要となった当事者が増える中、現場が追いつけていない現状があります。今後は、5年間積み重ねたネットワークを充実させ、お互いの強みを生かし、ともに連携していきたいと考えています。

ベルデ地域支援センターは、生活介護事業所などへの助言やお手伝いなども積極的に行っていますので、ご要望・ご相談もお気軽にお申し出下さい。

ベルデネット第8号をお届けします。

これからのベルデ地域支援センターの事業などについても記載しておりますので、目を通していただくと幸いです。

ベルデ地域支援センター 看護師 渡邊 八重美



■地域支援センターからの報告■

第20回堺ミーティングの報告

日時:2019年10月24日(木)19:00~20:40
会場:堺市立健康福祉プラザ 3階 大研修室
テーマ:「個別支援計画と福祉制度入門」
講師:森 繁樹 氏(ベルデさかい 事務次長)

第20回記念の堺ミーティングは、医療、看護、介護、教育、当事者家族、ベルデ職員など多方面かつ多職種から、86名と非常に多くの参加があり、関心の高さを感じました。

講師は、ベルデさかい事務次長の森繁樹氏にお願いしました。私たちが関わる医療・福祉の分野では避けて通ることができない、個別支援計画と福祉制度という内容について非常にわかりやすく、かつ課題も提示して頂きながら、貴重なお話を聞くことができました。

利用者ご本人さんの意思を尊重すること、要望に合わせた新たな制度を作っていくことの大切さを強調されており、共感できる参加者が多かったと思います。改めて家族や関係する事業所、そして地域や行政とのネットワーク作りがいかに大切かを感じた講演会でした。

今後も、ベルデさかいの地域支援センターがネットワーク作りの中核的な存在として役割を果たせるよう、成長していく必要性も痛感しました。

今回参加された皆さんにとって、非常に有意義な講演会だったと思います。

くおりあ倶楽部(症例検討会)の報告

第16回

日時 2019年8月26日(月) 19:00~20:40

「股関節の骨折ケースから学ぶ」として、検討会を行いました。利用者の重度化、高齢化、支援の困難さや家族の高齢化なども非常に大きな要因としてとらえる必要があることを再確認しました。

第17回

日時 2019年12月19日(木) 19:00~20:40

「成人後の暮らしのために準備したいことを考える」

心理職の立場でまとめた一事例を通して、成人期以降の暮らしをどう支えるか、何を準備しておくべきかを考えました。多方面からの貴重な意見を聞くことができました。そして、暮らし方の多様さを考えるいい機会になりました。



第4回 電動車いすフェスタ の報告

日時:2019年11月30日(土) 13:00~15:30
会場:堺市立健康福祉プラザ 体育室・屋上庭園など

「障害者週間」フェスティバルの一事業として今年もにぎやかに電動車いすフェスタを開催しました。いろんな電動車いすの試乗、屋上庭園の走行、電動車椅子レースなどを行い、地域の障害者と健常者、小学生からお年寄りまで、そしてベルデ入所利用者、通所・外来利用者などが一体となって交流を深めることができました。

電動車いすレースには、ベルデ入所の方や通所・外来利用の方、堺市内外の地域で生活をされている障害をお持ちの方々、小学生など、約30名が二つのチームに分かれて参加しました。ボランティアをはじめ多くの声援を受けて、皆さん一生懸命に走っておられる姿がとても印象的でした。

スタッフやボランティアの方々の尽力で大きな事故やトラブルなく運営が出来たことを感謝します。





あけぼの福祉会さんからの見学

2019年11月18日(月)、あけぼの福祉会さんから安全な食事の提供を目的に、厨房見学、試食、食事場面の見学など、管理栄養士・調理員・支援員・理学療法士、計6名が見学に来られました。

ベルデにとっても初めてのことでしたが、いい情報交換ができました。

保護者体操教室

2019年6月17日(月)・10月30日(水) 13:00~14:00 リハビリ室にて

ヨガやボッチャなどをして保護者の方々の交流を深めました。汗をかいた後は皆でお茶を飲みながらリラックスタイムも楽しみました。皆さん、お気軽にご参加ください。



■地域支援センターからのご案内・お知らせ■

講習会や勉強会などの詳細は、ベルデさかいホームページに随時掲載します

第21回堺ミーティングのご案内

日時: 2020年2月27日(木)19:00~20:30 (18:30受付開始)

会場: 堺市立健康福祉プラザ 3階 大研修室

テーマ: 「障害者の答えのない選択 あなたならどうする？」

講師: 橋本 洋之 医師(ベルデさかい 診療部長)

橋本先生は、障害を有する方々の婦人科疾患や性の問題に携わってこられ、ベルデさかいの診療部長としてご利用者の医療と生活全般に関わってこられました。

これまでのご経験から、障害を持ちながら『その人が、その人らしく生きるため』の課題や解決策を一つ一つの項目について教えていただきます。

たくさんのご参加をお待ちしております。

堺ミーティングの内容

- 子宮・乳がん検診は必要？
- おもらし？
- 病院探しがたいへん？
- 子供がほしい？
- 喉頭気管分離術、やってよかった？
- 食事を摂りたい？
- 検査、我慢できますか？
- 危機管理、できてますか？

第18回 くおりあ倶楽部 (症例・事例検討会)

リハビリ職種だけではなく、地域の事業所の方々など、どなたでも参加できる症例・事例検討会です。

どうぞお気軽にご参加ください。

日時:2020年3月ごろ 19:00~20:30

会場:堺市立健康福祉プラザ2階 リハビリ室



生活器具製作講習会

＜ベルデ製作所＞

Made
In
Verde

過去に制作した器具の作成方法は、ホームページからダウンロードできます。どうぞご利用ください。



ベルデさかいでは、様々な研修会や講習会などを企画・運営していきます。

皆様のご要望があれば、ぜひお聞かせください。